

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 まんまるはあと		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日		令和8年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日		令和8年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ST(言語聴覚士)による専門的な言語トレーニングの提供。 医学的な観点からの支援や、保護者への助言を行える。	STでの様子を都度保護者や職員に書面や口頭で共有している。職員にもアドバイスや情報提供することにより、STがないときでも活動や日常に取り入れ、言語の発達を目指している。	子どもの意思を尊重しながら、楽しく意欲的に活動できるように遊びやゲームに取り入れている。楽しみながら機能向上を育み、言語での困っている事を軽減、なくなることを目指している。
2	日々の活動での療育方法が豊富で、様々な経験や知識が得られるように努めている。	子どもたちの得意な事、苦手な事を把握しそれぞれのニーズを考え、日々の活動に取り入れられるようにしている。職員間で共有し話し合いを重ねる事により、様々な視点からアプローチ出来、子どもたちの発達が養っていけるよう日々模索し努めている。	療育内容がマンネリ化しないよう、各職員がSNSや様々な媒体から活動に取り入れられそうな情報を得ている。子どもたちが楽しんで意欲的に行えるよう各職員が試行錯誤し、日々活動を提供している。
3	系列の事業所にラーメン屋も運営しており、食育に力を入れている。月に数回調理レクや、おやつレクを活動を開催している。	調理レクに苦手な食材や様々な食材を取り入れる事により、挑戦してみる気持ちや食への興味や関心を高めていけるようにしている。	今年度は系列の事業所であるラーメン屋でラーメン作りを体験し、素材に関わり調理への関心を高められた。また畑作業を体験し、いのちの大切さについて学べた。来年度も様々な活動を取り入れ、食への関心を育てられるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内環境が狭く、十分なスペースが確保されていない。	室内が限られたスペースしかなく狭い為、安全面に考慮すると運動を主とした活動に制限が出来てしまう。またパーソナルスペースの確保も難しく、障害の特性に配慮した個別空間を提供できない場面もある。	日々の活動内容も空間にあわせレイアウトを変えたり、安全面を考慮した活動を模索していく。また空間がなくなるともパーティションやカーテンなどを駆使し、空間の構造化を目指していく。
2	非常時(災害時、感染症対策、虐待防止法など)の対応に対し、職員の見分が狭い。また、保護者の方への詳しい説明が不足している。	契約時に説明しているが、契約時という事と、内容が多い為、記憶に残りにくいと考えられる。	改めてマニュアルを見直し、職員間で共有し熟知していく。また分かり易く簡略化したものを、保護者の方にも書面などを通じてお知らせしていく。
3	地域との交流が少なく、地域の子どもと関わる機会が少ない。	市が運営している施設などには積極的に行っているが、来所している子どもと交流は持つことは多くはなかった。	次年度は就学に向けた児童が多い為、地域の子どもと関わる場に積極的に出向き、関りの場を提供していきたい。